

環境用語

あ行

ISO14001

ISO（国際標準化機構）が1996年に出した環境マネジメントシステム規格で、現在の2015年版は、初版から3回の改訂が図られています。

この規格は、PDCAサイクルを回すことによって継続的に環境改善を図ることをめざします。規格では経営者の決意表明（キックオフ）に始まり、組織の状況の理解をし、環境方針や目標を定めます。それを達成するために計画を立て運用します。また、定期的に内部監査を行い、その結果を経営層に報告し、経営層がアウトプットし継続的な改善を図ります。

アスベスト（石綿）

天然の鉱物で、繊維1本の細さは、だいたい髪の毛の5000分の1程度の細さです。耐久性、耐熱性、耐薬品性、電気絶縁性などの特性に非常に優れ安価であるため、日本では「奇跡の鉱物」と珍重され、建設資材、電気製品、自動車、家庭用品等様々な用途に広く使用されてきました。しかし、空中に飛散した石綿繊維を肺に吸入すると約20年から40年の潜伏期間を経た後に肺がんや中皮腫の病気を引き起こす確率が高いため、「静かな時限爆弾」と世間から恐れられています。

RDF（ごみ固形燃料）

廃棄物を燃料とした固形燃料をRDFと呼びます。廃棄物から可燃性のごみを取り出して破碎し、乾燥、固形化したものです。

硫黄酸化物(SO_x)

石油などの硫黄分を含んだ燃料が燃焼して生じる汚染物質です。一般的に燃焼過程で発生するのは大部分が二酸化硫黄（SO₂：亜硫酸ガス）であり、無水硫酸（SO₃）が若干含まれます。環境基準は、二酸化硫黄について定められています。硫黄酸化物は、人の呼吸器に影響を与えたり、植物を枯らしたりします。

一酸化炭素（CO）

炭素を含む燃料が不完全燃焼する際に発生し、主な発生源は自動車です。一酸化炭素が体内に吸入されると、血液中のヘモグロビンと結合して酸素の補給を妨げ、貧血を起こしたり、中枢神経を麻痺させたりします。

一般廃棄物

工場等から排出される産業廃棄物以外の廃棄物のこと。主に家庭から排出されるし尿、ごみ、粗大ごみなどの廃棄物のことを指します。

雨水浸透施設

多くの雨水は地下に浸透せずに雨水ますを通過して側溝へそのまま放流されています。そこで屋根に降った雨水をろ過して効率よく大地に浸透させる施設を雨水浸透施設といいます。この施設は、地下水の涵養と浸水被害の防止を目的とするものです。

エコドライブ

自動車を運転するときに急発進や急加速をすると燃料の無駄使いになるだけでなく、排気ガスによる大気汚染にもつながります。また、タイヤには適正な空気圧で走行することにより燃料を節約することができます。このように環境に優しい運転方法をエコドライブといいます。

SDGs（持続可能な開発目標）

2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において記載された2016（平成28）年から2030（令和12）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

NPO

Non Profit Organization（非営利団体、民間非営利団体）の略。市民運動やボランティア活動などをする人々が結成する組織。

NGO

Non Governmental Organization（非政府系組織）の略。政府と違い市民の立場から、主に国際的な活動を行う非営利の民間団体のこと。

オゾン層の破壊

オゾンは、成層圏にある酸素に強力な紫外線があたることによって生成する物質ですが、この成層圏にあるオゾン層は、生物にとって有害な太陽からの紫外線の大部分を吸収してくれるという大切な働きを持っています。ところが、地上で放出されたフロンは、オゾン層まで上昇し、紫外線によって分解されて塩素原子を放出します。オゾンはこの塩素原子と反応することによって破壊されてしまいます。連鎖反応により、一つの塩素原子は何十個ものオゾンを破壊してしまいます。このオゾン層の破壊が進むと、地上に降り注ぐ有害な紫外線の量が増加し、植物への被害や皮膚ガンの増加等を引き起こしたりする結果へとつながります。

温室効果ガス

太陽光によって温められた地表面は、赤外線という形で熱を地球の外に放出します。しかし、大気中に存在する二酸化炭素やメタン等のガスには赤外線を吸収する性質があるため、本来は外に放出される熱を大気中に止めてしまい、気温を上昇させる働きがあります。このような性質を持つガスのことを温室効果ガスといい、これには、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、フロン等があります。

が行

化学的酸素要求量（COD）

Chemical Oxygen Demand の略。水質汚濁の指標であり、水中の有機物が酸化剤で化学的に酸化されるときに消費される酸素量をいいます。

河岸段丘

河川に沿う階段状の地形。浸食作用により、もとの河床が現在の河床より高い台地になっているもので、土地の隆起や水量の変化などにより生じ、その回数に応じて何段かの段丘を形成します。

花崗岩

深成岩の一種。粗粒で、粒のそろった岩石。主に石英・カリ長石・斜長石・黒雲母からなり、角閃石（かくせんせき）や白雲母を含むこともあります。色は白や淡灰色、淡紅色が多く、堅牢で磨くと光沢がでます。

合併処理浄化槽

し尿と生活雑排水の両方を処理できる合併処理浄化槽のこと。

カーボンニュートラル

二酸化炭素を等のる温室効果ガス排出量を、実質ゼロにすること。排出削減を進めるとともに、排出量から、森林などによる吸収量をオフセット（埋め合わせ）することなどにより達成を目指します。

簡易水道施設

簡易水道施設とは、水道法上、導管及びその他の工作物により、水を人の飲用に適する水として供給する施設をいい、一般の需要に応じて水道により水を供給する事業のうち、給水人口が100人を超えるものを水道事業といいます。この水道事業のうち、給水人口が5,000人以下である水道によるものを簡易水道事業といい、それ以外の水道事業を上水道事業といいます。簡易

水道事業は、水道法上では、上水道事業とともに水道事業として概ね同じ取扱いですが、小規模簡易水道事業については、消火栓設置義務が免除されるなどの若干の特例が設けられています。

環境アセスメント（環境影響評価）

環境影響評価、いわゆる環境アセスメントは、環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業の実施に際し、その環境影響について事前に十分な調査、予測及び評価するとともに、その結果を公表して 地域住民の意見を聴き、十分な環境保全対策を講じようとするものであり、環境汚染を未然に防止するための有効な手段の一つです。

環境カウンセラー制度

環境保全活動に関する専門的な知識や豊富な経験を有する者として環境省の実施する審査に合格した人を「環境カウンセラー」として事業者部門（事業者の取り組みについてアドバイスする部門）、市民部門（市民や市民団体の取り組みについてアドバイスする部門）に分けて登録を行っています。環境保全に関する専門的な知識や豊富な経験に基づき、環境保全活動に関する助言などを行います。

環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準のことです。この基準は行政上の政策目標であり、人の健康などを維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていかうとするものです。現在、大気汚染、水質汚濁、土壌、騒音、航空機騒音及び新幹線鉄道騒音に係る環境基準が定められています。

環境負荷

人の活動により環境に加えられる影響で、環境の保全上の支障の原因となる恐れのあるものと定義されます。工場・事業場からの排水、排ガスや生活排水、ごみ、自動車排ガスはもとより、野生生物その他の自然物が損なわれる原因となるものや二酸化炭素のように蓄積した結果として支障を生ずる可能性があるものをいいます。

環境保全機能

大気の浄化、水源涵養、生態系の維持、景観保持、温室効果ガス吸収といった環境保全のためのさまざまな機能

環境ホルモン

環境中において、私たち人間を含めた生物の本来のホルモン作用をかく乱する物質を一般に環境ホルモンと呼びます。

環境リスク

様々な環境要因が人の健康や動植物に悪い影響を及ぼす可能性のこと。

京都議定書

1997年12月京都で開催されたCOP3で採択された気候変動枠組条約の議定書。ロシアの締結を受けて発効要件を満たし、2005年2月に発効。2005年8月現在の締約国数は、152カ国と欧州共同体。なお、日本は1998年4月28日に署名、2002年6月4日に批准しました。

先進締約国に対し、2008～12年の第一約束期間における温室効果ガスの排出を1990年比で、5.2%（日本6%、アメリカ7%、EU8%など）削減することを義務付けています。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。

クールチョイス

CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしていこうという取り組みのこと。

兼業農家（第1種、第2種）

世帯員の中に兼業従事者が1人以上おり、かつ農業所得の方が兼業所得よりも多い農家を第1種兼業農家といい、世帯員の中に兼業従事者が1人以上おり、かつ兼業所得の方が農業所得よりも多い農家を第2種兼業農家といいます。

光化学オキシダント（Ox）

大気中の炭化水素や窒素酸化物が太陽などの紫外線を吸収し、光化学反応で生成された酸化性物質の総称。粘膜への刺激、呼吸への影響といった健康影響のほか、農作物など植物へも影響を与えます。

公共用水域

河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域、そしてこれに接続する公共溝渠、灌漑用水路その他公共の用に供される水路のことをいいます。

微小粒子状物質（PM2.5）

大気中に浮遊している2.5 μm （1 μm は1mmの千分の1）以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質（SPM：10 μm 以下の粒子）よりも小さな粒子です。PM2.5は非常に小さいため（髪の毛の太さの1/30程度）、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されています。

こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、こどもが誰でも参加できる環境活動クラブで、環境省が応援しています。2人以上の仲間（メンバー）と、活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されます。活動内容は、地域における子どもたちの自主的な環境学習や実践活動など身近な環境活動に自由に取り組んでいます。

古琵琶湖層群

上野盆地に分布する昔の沼地や池、川などに堆積した地層は、湖に堆積した地層とともに一連の地層をつくって、上野盆地の北に位置する近江盆地内にも連続して分布しています。これらの地層は、昔の琵琶湖とその周辺の平野に堆積した地層という意味で「古琵琶湖層群」と呼ばれています。

コリドー

一般的には、野生生物の生息地間を結び、野生生物の移動に配慮した連続性のあるネットワークされた森林や緑地などの空間を言い、生態系ネットワーク、あるいは単にコリドーなどとも言われています。狭義には、林野庁が国有林において生物多様性保全策の1つとして進めている、今までに指定した様々な保護林と、その間をつなぐ森林をあらたにな保全林とし、「保護林ネットワーク」をつくる事業を指します。野生生物の生息空間を確保するための回廊（コリドー）のネットワークは、国際レベル、全国レベル、地方レベル、地域レベルなど様々な空間レベルで構築されるべきであり、さらにはそれらが全体としてひとつのネットワークを形成することが望ましいとされています。

コンポスト

微生物の働きによって生ごみや落ち葉などからできたたい肥のこと、あるいはその容器。

さ行

再生可能エネルギー

エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律（エネルギー供給構造高度化法）においては、「再生可能エネルギー源」について、「太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として永続的に利用することができると認められるものとして政令で定めるもの」と定義されており、政令において、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスが定められています。

里山

薪炭材や落ち葉などのたい肥を確保するために維持されてきた人里近くの低山や丘陵に発達する樹林を里山といいます。里山の代表種としては、アカマツ、コナラ、アベマキなどがあげられます。薪炭林、二次林とも言われます。

砂漠化

地球環境問題のひとつで、雨量の減少など気候的要因と過放牧、過耕作、薪の過剰な採取など的人為的要因により、土地のもつ生物生産力が減退ないし破壊され、砂漠のような状態になること。

産業廃棄物

「廃棄物処理法」に定められた分類で事業活動に伴って生じる廃棄物の中で、量的、質的に環境に著しい影響を及ぼすおそれがあり、排出事業者が責任を持って処理するものをいいます。具体的には、燃えがら、污泥、廃油、廃プラスチック類など 20 種類あります。

酸性雨

大気中に排出された硫黄酸化物、窒素酸化物等が空気中の水分あるいは雨と作用し、雨水が酸性化されたもの。通常の雨水は、大気中の炭酸ガスにより pH が 5.6 程度の弱酸性になっていますが、それより pH が低い場合を酸性雨といいます。森林や建物に被害を与えたりするといわれています。

シクロロメタン

有機塩素系溶剤の一種で、無色透明の液体。不燃性、難水溶性で金属・機械等の脱脂洗浄剤として広く使用されてきました。人の健康影響としては、急性影響では、吐き気、めまい、麻酔作用などが、また、長期暴露影響では中枢神経障害が指摘されています。

資源循環型社会

大量消費、大量廃棄型の社会に代わるものとして、廃棄より再使用、再生利用を第1に考え、新たな資源の投入をできるだけ抑えることや、自然生態系に戻し排出物の量を最小限とする、このような循環型社会づくりは環境保全型の社会づくりの重要な柱のひとつであり、使えるものは再度使うこと、原料として再生できるものは原料に戻すことが当然のこととして行われる社会へ変えていく必要があります。

自然エネルギー

自然現象としてのエネルギーを取り出して利用されるもので、太陽の光や熱、風力、小規模水力、バイオマス、潮力、地熱、温度差などを指します。

市民農園

一般にサラリーマンなどの都市住民がレクリエーション目的などで、小面積の農地を利用して野菜や花などを育てるための農園のことをいいます。最近、自然志向を背景に農業体験に対する都市住民の関心が高まっています。このような中、余暇活動として野菜や花などを育て、潤いのある生活や子供の教育面からも、自然や土とのふれあいを求め市民農園を利用する人々が増えていきます。

循環型農業

家畜排泄物や稲わら、籾がらをはじめ、家庭や事業所から排出される食品廃棄物などの有機性資源について、農家、食品産業関係者、住民などとの密接な連携の下に、堆肥や飼料などに再利用するなど、資源の有効利用を通じて生産と消費をつなぐ、環境にやさしい持続可能な生産形態である農業のこと。

準平原遺物

過去の準平原面（地表が長期にわたる侵食作用を受けて起伏が小さくなり、海面の高さ付近まで低下した、ほとんど平らな地形）の一部が山頂ごとに独立した小平坦面となって残っているもの。

水素イオン指数（pH）

水素イオン濃度を表す指数で、pH7が中性で、この値が7よりも小さくなれば酸性が強くなり、大きくなればアルカリ性が強くなります。

生活排水

生活排水とは、台所、トイレ、風呂、洗濯などの日常生活からの排水のこと。このうち、トイレの排水を除いたものを生活雑排水という。

生態系

動植物、微生物などが生息し、それらを取りまく大気、水、土壌などの無機的な環境から成り立ち、そこでの食物連鎖に伴う様々な物質（炭素・窒素等の栄養物質など）やエネルギー（太陽エネルギーがもとになっている）の流れによって複雑に結ばれた系。

生物化学的酸素要求量（BOD）

Biochemical Oxygen Demand の略。水質汚濁の指標であり、水中の有機物が好気性微生物により生物化学的に酸化されるときに消費される酸素量をいいます。

生物指標（Biotic Index）

水のきれいなところと汚れているところとでは、その程度に応じてそれぞれ異なった生物がすんでいます。このことを利用して、そこにすむ生物の種類から逆に水質を知ろうとするものです。物理化学的手法による水質分析がその水質を一時的に示すことに対して、生物指標は平均的な水質を知ることができます。

絶滅危惧種 I A 類

ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いものをいいます。

絶滅危惧 I B 類

I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いものをいいます。

ゼロエミッション

ある産業から出る全ての廃棄物を他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とする新しい資源循環型社会の形成を目指す考え方として国連大学で提唱されました。最近では、循環型社会づくりの重要なコンセプトとなり、廃棄物を出さない経済社会、地域社会、企業活動などを表す広い意味として使われます。

た行

テトラクロロエチレン

有機塩素系溶剤の一種で、ドライクリーニングの洗浄剤、金属・機械部品の脱脂・洗浄、一般の溶剤など産業用として幅広く使用されてきました。

第1 種兼業農家

世帯員のなかに兼業従事者が1人以上おり、かつ農業所得の方が兼業所得より多い農家のこと。

第2 種兼業農家

世帯員のなかに兼業従事者が1人以上おり、かつ兼業所得の方が農業所得より多い農家のこと。

ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾーP-ジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、及びコプラナーポリ塩化ビフェニルという（Co-PCB）の総称で、動物実験で強い急性毒性を持つことが明らかにされているほか、人に対する発がん性や催奇形性が疑われています。ダイオキシン類は、燃焼や化学物質製造の過程などで非意図的に生成され、燃焼排ガスや化学物質の不純物として環境に排出されます。

代償植生

さまざまな人為的影響が加えられた後に成立した植生。自然植生の対語として使われます。農耕地や人工林などのほか、刈り取り、伐採などによって成立した里山や草原なども含みます。人為的影響がなくなると徐々にその構成種が変化して自然植生に向けて遷移します。日本の現存植生のほとんどは代償植生です。里地、里山を形成する代償植生は自然に成立したものではありませんが、長期間に渡って維持されてきたため、そうした環境に適応した生物も多数存在しています。近年、山村地域における過疎化や高齢化、産業活動の変化に伴って、コナラ林に代表される代償植生の伐採がほとんど行われなくなっています。これにより生物相に変化が起こり、生物多様性維持の面から問題視されています。

大腸菌群数

大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいい、水質指標の1つで、し尿汚染を表す指標として利用されます。数値が大きいほど水中に存在する大腸菌群が多いことを示しています。

太陽光発電

シリコン半導体などに光が当たると、電気が発生する原理を応用した発電システムです。太陽光エネルギーを直接電気に変換する部分が太陽電池です。

多自然型工法

治水上の安全性を確保した上で、自然石や木材、植物などの自然の材料等を利用して、本来川の持つ緑豊かで魚などの生き物などがすみやすい多様な自然環境を保全、創出、再生するための工法。

単独処理浄化槽

し尿のみを処理する単独処理浄化槽のこと。2000（平成12）年に浄化槽法が改正され、単独処理浄化槽の新設は原則として禁止され、浄化槽の新設時には、原則「合併処理浄化槽」を設置することが義務付けられた。

地球温暖化

石油や石炭などの化石燃料の大量消費により二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中に排出され、これらのガスにより地球の温暖化が進んでいます。このまま地球温暖化が進むと、海面の上昇、異常気象の発生、食糧生産・生態系への影響などの問題が懸念されています。

沖積平野

河川の堆積作用によって生じ、現在までその作用が続いている平野。日本では完新世（沖積世）に形成された平野という意味にも用いられます。

低公害車

燃料電池自動車、電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、水素自動車、クリーンディーゼル車（乗用車）などの環境負荷の小さい自動車のこと。

窒素酸化物(NOx)

窒素酸化物は、石油、ガス等燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等、多種多様にわたります。燃焼の過程では、一酸化窒素(NO)として排出されますが、これが徐々に大気中の酸素と結び付いて二酸化窒素となります。環境基準は二酸化窒素について定められています。窒素酸化物は、人の呼吸器に影響を与えるだけでなく、光化学スモッグの原因物質の1つとなります。

特定空き家等

そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上 危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる空き家を言います。

トリクロロエチレン

有機塩素系溶剤の一種で、金属・機械部品の脱脂・洗浄、一般の溶剤、塗料、熱媒体など産業用として幅広く使用されてきました。

な行

二酸化硫黄

腐敗した卵に似た刺激臭のある無色の気体。不純物として石炭中に最大 2.5%程度、原油中に最大 3%程度含まれる。石炭や石油などの燃焼時の硫黄の酸化により発生します。大気汚染物質のひとつとして、また、窒素酸化物とともに酸性雨の原因物質として知られます。さらに、二酸化硫黄は呼吸器を刺激し、せき、ぜんそく、気管支炎などの障害を引き起こすと言われています。

二酸化窒素

窒素の酸化物で赤褐色の気体。発生源はボイラーなどの固定発生源や自動車などの移動発生源のような燃焼過程、硝酸製造等の工程などがあります。燃焼過程からはほとんどが一酸化窒素として排出され、大気中で二酸化窒素に酸化されます。また、生物活動に由来する自然発生があります。地球規模では二酸化窒素のほとんどが生物活動から発生しています。人の健康影響については、二酸化窒素濃度とせき・たんの有症率との関連や、高濃度では急性呼吸器疾患罹患率の増加などが知られています。

熱帯雨林の減少

熱帯雨林は、野生生物種にとっても貴重な生息地となっています。また、地球的な規模で気候緩和や地球温暖化防止、土壌の保全、水源の涵養などにも寄与しています。このような地球規模的なレベルで重要な存在といえる熱帯林が、過度の焼畑耕作や商業伐採などによって年々減少しています。しかし、その背景には、発展途上地域の貧困や人口の急激な増加といった社会・経済的な問題が潜在的にあります。

農業粗生産額（農業産出額）

農産物の生産量に農家の庭先取引価格を乗じて求めた金額。

農業集落排水処理施設

農業用排水の水質保全、農村の生活環境改善、自然環境の保全などを目的として、農林水産省の補助事業により整備するもので、公共下水道とほぼ同様の機能を持つ施設。

農地のオーナー制度

地域の非農家や地域外住民に農地のオーナーになってもらい、一定区画の水田などを割り当て、それに対して会費を徴収し、収穫物をオーナーに手渡す制度。

は行

バイオマスエネルギー

生物体を利用して得られるエネルギーのことで、無限に再生可能なエネルギー資源として注目されています。バイオマスエネルギーの利用方法としては、燃焼して発電を行うほか、アルコール発酵、メタン発酵などによる燃料化や、ユーカリなどの炭化水素を含む植物から石油成分を抽出する方法などがあります。

パリ協定

2015（平成 27）年 11 月から 12 月にフランス・パリで開催された気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）において採択された、2020（令和 2）年以降の温暖化対策の新たな法的枠組み。産業革命前からの気温上昇を 2℃未満に抑えるとともに、1.5℃未満になるよう努力する等の数値目標が定められた。

ビオトープ

ドイツ語で「野生生物の生息空間(場所)」を意味します。主に生態学などで用いられていますが、ドイツなどでの多様種の動植物の共同体である生物群全体の生息空間を保全・育成する取り組みを通じて環境の分野や一般の間で注目を集めるようになってきました。

PDCAサイクル

マネジメントサイクルの1つで、計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（action）のプロセスを順に実施し、最後の改善を次の計画に結び付け、品質の維持・向上や継続的な改善活動につなげる手法。

ppm

parts per million の略。100 万分の 1 を表す単位で、濃度や含有率を表す容量比、重量比のことです。1 ppm とは、大気汚染物質の濃度表示では大気 1 m³ の中にその物質が 1 c m³ 含まれていること、また、水質汚濁物質の濃度表示では水 1 kg の中にその物質が 1 mg 含まれていることです。

pg-TEQ

1 pg（ピコグラム）とは、1 兆分の 1 g を表します。TEQとは、実際のダイオキシン類の環境影響を判定するため、各異性体の実測濃度をいちばん毒性の強い 2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの量に換算した量として表していることを示す符号です。

浮遊粒子状物質（SPM）

浮遊粉じんのうち粒径が 10 ミクロン（1 cm の 1000 分の 1）以下のものをいいます。

浮遊物質（SS）

Suspended Solid の略。水中に懸濁している不溶性物質の量をいいます。

冬日

1 日の最低気温がセ氏零度を下まわる日のこと。

フロン類

フロン排出抑制法で CFC（クロロフルオロカーボン）、HCFC（ハイドロクロロフルオロカーボン）、HFC（ハイドロフルオロカーボン）を「フロン類」と定義しています。

化学的にきわめて安定した性質で扱いやすく、人体に毒性が小さいといった性質を有していることから、エアコン、冷蔵・冷凍庫の冷媒、スプレーの噴射剤など、身の回りの様々な用途に活用されてきました。

しかし、これらフロン類は、オゾン層の破壊、地球温暖化といった地球環境への影響が明らかになったことから、オゾン層破壊効果が無く、温室効果の小さいノンフロン等への代替が進められています。

ベンゼン

一種の臭気を持ち、芳香族化合物の母体として、各種の有機化合物の合成原料として用いられている。ガソリン中に存在し、排気ガスとして大気中に放出される。造血組織に毒性を示し、白血病を含む血液変化の原因物質です。

片麻岩類

変成岩の一種。広域変成作用でできた、粗い縞状構造をもつ岩石です。鉱物組成は花崗岩（かこうがん）に似たものが多く、石英・長石・雲母・角閃石などからなります。

ま行

マイクロプラスチック

プラスチックは自然分解されず、半永久的に残るとされており、紫外線や波の影響で劣化したプラスチックのうち、5mm以下のサイズになったものを指します。

マニフェスト（産業廃棄物管理票）

産業廃棄物の排出事業者が処理業者に処理委託する時、不法投棄の防止や適正処理の確保を目的に交付する管理票のこと。マニフェスト伝票には廃棄物の名称、数量、性状、運搬業者名、処分業者名などを記載し、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の間で受け渡します。排出事業者は伝票を保管する必要があります。また産業廃棄物を委託処理し、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付した全ての排出事業者は、毎年6月30日までに前年度の交付状況を都道府県知事などに報告する必要があります。

真夏日

最高気温が摂氏30度以上の日のこと。

猛暑日

最高気温が摂氏35度以上の日のこと。

や行

溶存酸素（DO）

水中に溶存している酸素を示します。溶存酸素が不足すると水は嫌気性状態となり、嫌気性細菌により硫化水素、メタン等が発生し、悪臭の原因となることがあります。

ら行

リターナブルびん

ビールや酒、牛乳や清涼飲料水のびんなどで、回収して再利用されるびんのこと。リサイクルの場合、ビンや缶は再び溶かして作り直す必要があるが、リターナブルびんは洗浄するだけで再利用できるため、資源の節約とゴミの減量化に役立ちます。今では缶やペットボトルが主流となっていますが、今後有効活用のためにも新たな取り組みが進められていく容器です。

リサイクル（再利用）

産業物を資源の節約や環境汚染の防止のために再度、活用すること。再生紙化、金属等の回収、助燃剤化、熱回収等があります。

リデュース（減量）

廃棄物をなるべく出さないようにするための取り組み。事業者は原材料の効率的利用や使い捨て製品の製造・販売の抑制など製造から流通段階までの配慮が必要とされます。また消費者はごみを分別・減量化する、使い捨て製品を購入しないなど家庭からの発生量削減に努める必要があります。

リフューズ（発生回避）

申し出などを拒否するという意味があります。廃棄物の発生を減らす取り組みの一つであり、ごみの元になるものを買ったり貰ったりしないことを言います。

例えば、買い物をするときに、エコバックを持参し、レジ袋を受け取らないなどが該当します。

リユース（再使用）

使用して不要になったものをそのままの形でもう一度使うこと。不要になったがまだ使えるものを再び使う場合や、生産者や販売者が使用済み製品や容器などを回収して修理したり洗浄してから、再び製品や容器などとして使う場合があります。